

## 海外における障害者への性暴力被害の状況【概要】

2019年9月24日

岩田千亜紀(東洋大学社会学部)

1

## 自己紹介

- 氏名: 岩田 千亜紀(いわた ちあき)
- 職業: 東洋大学社会学部社会福祉学科助教
- 岩田千亜紀「障害者へのDVなどの暴力についての国際的な動向と課題: 文献レビュー」、『東洋大学社会学部紀要』55-1、2017年
- 岩田千亜紀・中野宏美「発達障害者への性暴力の実態に関する調査」、『東洋大学社会学部紀要』56-2、2018年など
- スマイルネット(発達障害の母親たちの当事者会)の運営スタッフ(2014年～)

2

主な出典:

岩田千亜紀「障害者へのDVなどの暴力についての国際的な動向と課題: 文献レビュー」、『東洋大学社会学部紀要』55-1、2017年

([https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=9643&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=9643&item_no=1&page_id=13&block_id=17))

3

## 1. 障害児者の性暴力被害の割合

健常者よりも障害者では、性暴力被害の割合が高い

海外で行われた障害者(身体障害者、知的障害者、精神障害者)への性暴力被害の状況について調べたところ、健常者の男女に比べて障害者の男女では、性暴力被害の割合が顕著に高くなっていた。特に、障害女性では健常女性のほぼ2~3倍、性暴力被害を受けていた。

4

## 2. 障害児者の性暴力被害の特徴

障害者への性暴力被害においては、長期間、複数回にわたる被害が多い

障害者への性暴力では、長期間にわたる被害や、複数回にわたる被害が多い。知的障害者をふくむ発達障害者への暴力に関する調査(Sobsey et al. 1991)によれば、発達障害の女性の70%が性暴力を受けたことがあり、知的障害のある女性の半数近くが、生涯で10回以上も性暴力の被害に遭った。また、それらの被害は時には重篤で、非常に危険な状況を招くこともあった。

5

## 3. 障害児者への性暴力の加害者

性暴力被害の多くは、自宅で発生している。加害者には、男性健常者の介護者が多い

多くの場合、被害は被害者の自宅や居住地で発生している。加害者はほぼ男性である。加害者には、友人、家族(夫など)、医療従事者、介護者、移動介助者などが含まれるが、特に男性健常者の介護者などによるものが多い(Young et al. 1997)。

6

## 4. 障害児者への性暴力被害の要因

障害者は、性暴力被害から逃れることが困難である

身体障害のある女性を対象にした調査(Nosek et al. 2006)では、女性の身体障害者のうち、介護を常に必要とする場合は、介護者への依存度が高まり、性暴力の被害から逃れることが困難であるなどの理由から、性暴力の被害に遭う確率が高くなっている。

7

## 5. 障害者の場合、性行為についての同意が困難である

諸外国の性犯罪規定では・・・

“同意のない性行為は性犯罪である”

→諸外国の刑法では、発達障害者や知的障害者等については、性行為についての同意が困難であるとして特別な規定を設けている

( <https://www.rainn.org/articles/sexual-abuse-people-disabilities>、しあわせなみだ報告書P14-15)

8

## まとめ

- 障害者の場合、障害の特性等により、性暴力の被害に遭う割合が高い。
- 障害者の場合、加害者の多くが介護者等であること、障害者の性に関する知識の不足、抵抗できないなどの理由により、性行為に対する同意は困難であることが多い。

障害者への性暴力の現状に配慮して、諸外国の刑法と同様、刑法性犯罪規定の処罰規定に「被害者が障害児者であることに乗じた性犯罪」を設けることが望まれる。